

### 3. 生命・医療倫理\*1

庄司 進一\*2

#### 1. 医療倫理に関する日本医学教育学会を中心とする2001年以後の活動

日本医学教育学会医療倫理教育ワーキンググループ（主任：庄司進一）が「卒前医学教育における医療倫理教育カリキュラム提言」「卒前医学教育における医療倫理教育マニュアル」を2001年<sup>1)</sup>、2002年<sup>2)</sup>に発表し、それをワークショップで大学教員や病院指導医など28名を集め2002年11月に2日間で開催し、「第1回医療倫理教育ワークショップ報告」<sup>3)</sup>として報告した。このワーキンググループが第14期日本医学教育倫理教育委員会（委員長：庄司進一）となり、2006年2月に2日間の卒後初期臨床研修における倫理教育指導者ワークショップを開催し、倫理教育の指導者25名が大学や研修病院から集まり、「第1回卒後初期臨床研修における倫理教育指導者ワークショップ報告」<sup>4)</sup>として報告された。「日本の卒後臨床研修における倫理教育の現状」<sup>5)</sup>は臨床研修病院における卒後倫理教育の現状を調査するために、全国の臨床研修指定病院の病院長宛に、研修医に対する倫理教育の実態について無記名自記式質問票調査を行い、倫理教育プログラムは73.3%の病院が「ない」と回答したと報告した。2007年2月には2日間の第2回初期臨床研修における倫理教育指導者のためのワークショップが終末期医療・緩和ケアをテーマに19名の参加者で開催された。

「第3回臨床研修指導医のための倫理教育ワークショップ」<sup>6)</sup>から主催が、日本医学教育学会倫

理行動科学小委員会（委員長：後藤英司）に引き継がれ、2008年2月に2日間で開催され、対象を研修指導に関わる多様な職種、医学部教員、その他に広げ参加者35名で開催された。2007年11月には、「倫理行動科学ワークショップ」も開催された。

岡田一義らにより日本大学医学部5年生の生命倫理についての意識で、悪性腫瘍終末期で、緩和治療、尊厳死、安楽死の支持率などが「診療参加型臨床実習医学生における生命倫理についての意識調査」として2007年に報告された<sup>7)</sup>。

児玉知子らにより「医学部における医療倫理教育の現状について—全国医学部調査より—」<sup>8)</sup>が2009年発表された。医療倫理教育担当者が一貫してカリキュラムを担当しているのは28%であった。医療倫理の重要性が認識されているが、医学部教育の現状にはばらつきも大きく人的資源も乏しいと報告された。

松井健志らにより「公衆衛生の倫理に関する教育の現状とカリキュラムの方向性」<sup>9)</sup>が2009年に報告された。全国の衛生学・公衆衛生学講座の長を対象に自記式質問票調査を行い、60.4%が担当授業の中で倫理教育を行っていたが、教育実践の不備、専門的・体系的教育の必要性・重要性を報告した。

日本医学教育学会倫理行動科学小委員会（委員長：後藤英司）/準備教育小委員会（委員長：中村千賀子）編で、「人間学入門—医療のプロをめざすあなたに—」<sup>10)</sup>が2009年に発刊された。このII章の3節は「医療における倫理」で医療倫理について歴史的背景、職業倫理、社会変化や医学・医療の進歩と倫理、人間の自然史と倫理、臨床における倫理、看護実践における倫理、の項で総説や事例が記載された。

\*1 Bio- and Medical Ethics

\*2 Shin'ichi SHOJI 社会医療法人城西医療財団城西病院、筑波大学名誉教授

日本医学教育学会倫理プロフェッショナルリズム委員会(委員長:後藤英司)主催の「臨床倫理(白浜記念)ワークショップ」が2009年11月に2日間で開催された。

吉中丈志らは「戦争と医学に関する医療倫理教育の課題—日本とドイツの医療倫理教育調査を踏まえて—」<sup>11)</sup>を主張で発表した。ヘルシンキ宣言と医師の戦争犯罪についてドイツではほとんどの医学部・医科大学の医療倫理教育で取り上げられていたが日本では少数であったと報告した。

## 2. 緩和ケアの日本医学教育学会を中心とする活動

平川仁尚らは「高齢者介護施設における終末期ケアの実施および施設長向け教育に関する課題」<sup>12)</sup>の題で、高齢者介護施設での看取りの実施とその教育に関する課題についての施設長を対象とした意識調査を2008年発表した。スタッフ向け教育、施設外医師の理解と協力、個室などの充実、医師・看護師の24時間体制などが必要と考えた。

卒前・卒後緩和ケア・カリキュラム提言プロジェクト(プロジェクト・リーダー:庄司進一)は、医学教育、高等教育、緩和ケア、生命倫理、コミュニケーションなどの専門家からなる42名のグループで、「緩和ケア・カリキュラム提言」<sup>13)</sup>を2008年に資料として発表した。これは医学部ばかりでなく、医療職全ての卒前教育と、緩和ケアをプロとする全ての職種の卒後のコミュニケーション・スキルの熟達のための2日間のワークショップのカリキュラムである。

高階経和らが「緩和ケア」に対する医療従事者と一般市民の認識について<sup>14)</sup>の題で、在宅緩和ケアについてのアンケート調査を行い、医療従事者の在宅緩和ケアの可能性についての認識が25%と特に低かったと2008年報告した。

平川仁尚らは、高齢者の終末期ケアに関する全国の医学科、看護学科の教科案内を調査し、年齢による差別、高齢者の終末期の定義、高齢者総合機能評価、高齢者のQOLに関する項目が重要と2009年報告した<sup>15)</sup>。

## 3. プロフェッショナルリズムの日本医学教育学会を中心とする活動

宮田靖志らは、「医療におけるプロフェッショナルリズムの日米医師の意識の違い」を2008年発表した<sup>16)</sup>。「医師憲章」にある10の責務に関する意識を調べる質問票を用い日米の総合診療科医師を比較したところ、ほとんどの責務について米国の医師は緊急性が高いと考え、実際にその事例に遭遇している割合が多かった。

後藤道子らは、「振り返りを伴った早期医療体験実習の教育効果について—1年を通じたプロフェッショナルリズム育成の場としてのearly exposure—」を2009年発表した<sup>17)</sup>。アンケート、ディリーログの省察項目の分析、ポートフォリオの感想の質的分析、レポートなどから、学習の動機付けの維持に効果があると結論した。

## ■文献

- 1) 日本医学教育学会医療倫理教育ワーキンググループ。卒前医学教育における医療倫理教育カリキュラム提言。医学教育2001; 32: 3-6.
- 2) 日本医学教育学会医療倫理教育ワーキンググループ。卒前医学教育における医療倫理教育マニュアル。医学教育2002; 33: 113-9.
- 3) 日本医学教育学会医療倫理教育ワーキンググループ。第1回医療倫理教育ワークショップ報告。医学教育2003; 34: 187-92.
- 4) 第14期日本医学教育学会倫理教育委員会。第1回卒後初期臨床研修における倫理教育指導者ワークショップ報告。医学教育2006; 37: 9-15.
- 5) 長尾式子, 瀧本禎之, 赤林 朗, 他。日本の卒後臨床研修における倫理教育の現状。医学教育2006; 37: 215-20.
- 6) 後藤英司, 井上千鹿子。第3回臨床研修指導医のための倫理教育ワークショップ。医学教育2007; 38: 180.
- 7) 岡田一義, 片山容一, 山本樹生, 他。診療参加型臨床実習医学生における生命倫理についての意識調査。医学教育2007; 38: 345-9.
- 8) 児玉知子, 浅井 篤, 板井孝壺郎。医学部における医療倫理教育の現状について—全国医学部調査

- より一. 医学教育 2009 ; **40** : 9-17.
- 9) 松井健志, 金川里佳, 児玉 聡, 他. 公衆衛生の倫理に関する教育の現状とカリキュラムの方向性. 医学教育 2009 ; **40** : 117-22.
- 10) 人間学入門—医療のプロをめざすあなたに— (日本医学教育学会倫理・行動科学小委員会 / 準備教育小委員会編) 南山堂, 東京, 2009, 62-86.
- 11) 吉中丈志, 西山勝夫. 戦争と医学に関する医療倫理教育の課題—日本とドイツの医療倫理教育調査を踏まえて—. 医学教育 2010 ; **41** : 13-6.
- 12) 平川仁尚, 植村和正, 葛谷雅文. 高齢者介護施設における終末期ケアの実施および施設長向け教育に関する課題. 医学教育 2008 ; **39** : 245-50.
- 13) 卒前・卒後緩和ケア・カリキュラム提言プロジェクト. 緩和ケア・カリキュラム提言 医学教育 2008 ; **39** : 333-9.
- 14) 高階経和, 木野昌也, 斎藤隆晴, 他. 「緩和ケア」に対する医療従事者と一般市民の認識について. 医学教育 2008 ; **39** : 437-41.
- 15) 平川仁尚, 葛谷雅文, 植村和正. 高齢者の終末期ケアに関する教育内容について. 医学教育 2009 ; **40** : 61-4.
- 16) 宮田靖志, 岩田 勲, 山本和利. 医療におけるプロフェッショナリズムの日米医師の意識の違い. 医学教育 2008 ; **39** : 161-8.
- 17) 後藤道子, 津田 司, 横山和仁, 他. 振り返りを伴った早期医療体験実習の教育効果について—1年を通じたプロフェッショナリズム育成の場としての early exposure—. 医学教育 2009 ; **40** : 1-8.